多久市からのお知らせ

新型コロナワクチン 3回目接種のお知らせ

問 健康増進課 ☎75－3355

3回目の新型コロナワクチンの接種間隔が変更となりました。くわしい内容は全戸配布している接種間隔変更についてのチラシに掲載しています。

■**対象者**

①医療従事者、高齢者施設の入所者と職員、入院患者
⇓2回目接種から6か月以上経過

②65歳以上の高齢者（①に該当する人を除く）
⇓2回目接種から7か月以上経過

※令和3年6月中に2回目接種をした人は1月4日に接種券を送付しますが、7か月が経過しても接種は2月以降となります

※65歳以上の高齢者のうち、①に該当する人は、接種間隔が異なりますので、予約の際はご注意ください

③18歳～64歳
⇓2回目接種から8か月以上経過

※令和3年7月中に2回目接種をした人は1月上旬に接種券を送付します

■**接種証明書（電子版）が取得できます！**

ワクチン接種証明書の電子版がスマートフォンから取得できるようになりました。

電子版には、国内用、海外用の2種類があります。

接種証明書（電子版）について▶

【取得の際に必要なもの】

●スマートフォン（アイフォンはiOS13、アンドロイドはOS8以降）

こちらのQRコードを読みこんでアプリをダウンロードしてください。

▲アイフォン用

▲アンドロイド用

●マイナンバーカード
※暗証番号（4桁）が必要です

●パスポート（海外用のみ必要）

多久の古文書から

郷土資料館 山口 佐和子

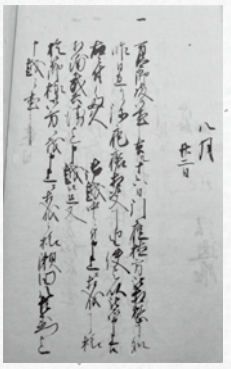
佐賀で最初のワクチン接種

多久市では新型コロナウイルスワクチンの接種が進んでいますが、江戸時代、天然痘のワクチン接種（種痘）が始まった時はどうだったのでしょう。多久市郷土資料館が所蔵している江戸時代の行政記録「日記」には、嘉永2年（1849）の8月16日、佐賀藩でオランダ商館医を通じて輸入されたばかりの牛痘（牛の天然痘ワクチン）を多久家11代当主茂族（しげつぐ）（17歳）の弟万太郎（8歳）が受けたことが記されています。

◉嘉永2年8月22日の条

〝一、万太郎殿御事、去る十六日引痘方相整われ候処、昨日わたり疱瘡相決候由（以下略）〟

「引痘」とは種痘のことです。



▲万太郎種痘

8月16日の万太郎の接種をきっかけとして、その8日後佐賀藩主鍋島直正の嫡男淳一郎（後の直大）が接種を受けました。その後、佐賀藩はもちろん、多久領でも現在の多久八幡や寺院などを会場として子どもたちに集団接種が行われました。

また「役所日記」には、時の多久領主茂族自身も自ら進んで種痘を受けた記録が残っています。

◉嘉永2年12月17日

〝御前御事去ル十七日より引痘遊ばされ、御植候処、昨日の御容躰牧春堂其外相伺われ候処、しかと御感遊ばされ御模様ニ而無之（以下略）〟

「御前」とは茂族のことです。茂族は佐賀藩医牧春堂から種痘を受けましたが、残念ながら効果はありませんでした。

まだワクチンという概念そのものが浸透していなかった時代、種痘を受けることは大変勇気のいることでした。約170年前の多久家の人々はその先陣をきったと言えるでしょう。